第 28 回環境工学総合シンポジウム 2018　レポート

シンポジウム 2018 実行委員会

１．はじめに

2018 年 7 月 11 日(水)～12 日（木）の二日間にわたり、早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて、環境工学部門が企画する第 28 回環境工学総合シンポジウム 2018 が開催されました。環境工学部門は、第 1～第 4 技術委員会を主体として構成されており、それぞれ「騒音・振動評価改善技術分野」「資源循環・廃棄物処理技術分野」「大気・水環境保全分野」「環境保全型エネルギー技術分野」となっています。広く横断的な側面をもった部門として、産官学のつながりが豊かなところが特徴といえます。

２．講演

4 つの分野に分かれた会場で、並行して 94 件の講演発表が行われました。また、12 日の午前中にはワークショップとして「自然冷媒を活用した最新の冷凍給湯空調技術」（第 4 技術委員会）も開催されました。

数年前から事例発表を歓迎する方針としたことに加え、今年は講演発表時間を 5 分短くして発表を促すこととしています。

３．パネルディスカッションと特別講演

11 日の午後はパネルディスカッションと特別講演が行われました。

パネルディスカッションは「環境工学における規格と認証」と題して、規格規制委員会（委員長：早稲田大学齋藤潔教授）と第 1 技術委員会・第 4 技術委員会が合同で企画しました。環境騒音の規格関連で京都大学の高野靖氏、冷凍機関係の規格関連で（一社）日本冷凍空調工業会の松田健健兒氏、自動車騒音の規格関連でトヨタ自動車（株）の加藤幸治氏の 3 名が講演とともにパネリストとして登壇し、齋藤先生が司会・モデレータを担当しました。

学会として各国政府等における環境関係の規格・規制や政策等の最新情報を発信したり，提言することが必要ではないか？との考えから、このパネルディスカッションを開催したものです。環境に関連した規格や規制の現状を把握することを目的として、2 つの分野から話題提供と討議が行われました。

特別講演は、松山部門長の司会のもと 2 件の講演が行われました。

1件目は国立研究法人産業技術総合研究所の玄地裕氏（安全科学研究部門副研究部門長）による「LCAで考える環境性能」。昨今パリ協定、SDGs、サーキュラーエコノミーといった国際的な温暖化や持続可能性に対する取り組みが開始され、環境性能の定量化に用いるライフサイクルアセスメント（LCA）やライフサイクル思考への理解が以前にも増

して重要になっています。講演ではLCAの考え方のポイント・比較などを中心に環境性能の定量化について紹介がありました。

2 件目は、この特別講演を企画した先進サステイナブル都市ワーキンググループ委員長で、東京電力エナジーパートナー（株）経営企画室部長の佐々木正信氏による「EV 時代における電力供給」。近年、国内外で EV 普及に向けた動きが拡大しており、将来は発電サイドで再生可能エネルギー電力が増加し、需要サイドでは EV 等の新しい電力負荷設備が増加する状況になることが想定されています。また、バーチャル・パワー・プラント（VPP）として、分散する需要側設備をアグリゲートして、ひとつの発電所のように運用する取組みも進められています。このような将来の電力供給と EV の役割の可能性について、わかりやすく解説されていました。

４．懇親会と表彰式

懇親会と表彰式は、早稲田大学西早稲田キャンパス内のロームスクエアにおいて、11 日の特別講演終了後に開催されました。部門への功績があった方、優秀な発表をされた方など表彰対象の方々の今後の活躍を期待します。

５．おわりに

今回のシンポジウム開催にあたり、実行委員の方々や早稲田大学の関係者の方々には大変お世話になりました。深く感謝いたします。

2019 年度の環境工学総合シンポジウムは、数年に一度になる国際シンポジウムを併催し、6 月 25 日～28 日の 3 日間にわたり沖縄で開催する予定となっています。2000 年に G8 サミットが開催された名護市の万国津梁館が会場で、すばらしいロケーションとともに、沖縄ならではの企画も計画されています。多くの方の参加をお願いいたします。

写真１　パネルディスカッションの様子

写真２　懇親会と表彰式